

新地建設工業、AIクラウド工程管理『PROCOLLA（プロコラ）』を導入。 「現場監督を書類から解放し、現場へ」

大林組と共同開発した「現場の作法を変えない」操作性が、DXを主導する経営層と現場の両面から高く評価

建設業界のDXを推進する株式会社Arent（本社：東京都港区、代表取締役社長：鴨林 広軌、以下「Arent」）は、宮崎県を拠点に土木・再生可能エネルギー事業を展開する株式会社新地建設工業（本社：宮崎県都城市、代表取締役：新地 裕樹、以下「新地建設工業」）が、AIクラウド工程管理ツール『PROCOLLA（プロコラ）』を導入したことをお知らせいたします。

今回の導入は、現場監督の事務負担を軽減し「現場での安全・品質管理」に注力できる環境構築を目的としています。また、新地建設工業が以前より利用している「レッツ原価管理Go2シリーズ」を提供する株式会社レッツがArentグループであることから、今後のグループシナジーによる更なる業務効率化への展開にもご期待をいただいております。



■ 導入の背景：Excel管理の限界と「現場ファースト」なDXの追求

新地建設工業では、これまでExcelを用いて工程管理を行ってきましたが、「作成者によって書式や記号がバラつく」「現場が大規模になるほど印刷設定や修正に膨大な時間がかかる」といった課題を抱えていました。

自らDXを主導する新地社長は、複雑な多機能ツールではなく、「現場の人間が明日から迷わず使えるシンプルさ」を重視。株式会社大林組との共同開発により、Excelのような自由な操作性を維持しつつクラウドでのデータ一元化を実現した『PROCOLLA』の思想が、同社の「現場主義」と合致し、導入に至りました。

■ 導入の決め手と効果

1. 「現場の作法」を変えない直感的なUI

Excelの操作感を踏襲しているため、現場社員の抵抗感が極めて低く、スムーズな移行を実現。線の描画や文字入力、行の入れ替えといった基本動作のストレスが解消されました。

2. 「ボタンを増やさない勇気」が生んだ使いやすさ

開発チームがこだわった「必要な情報だけを必要な時に見せる」設計が、ITツールに不慣れな層からも「怖くないUI」として高く評価されました。

3. Arentグループの体制と将来的なシナジーへの期待

新地建設工業が長年愛用してきた「レッツ原価管理Go2シリーズ」を提供する株式会社レッツがArentグループに加わったことで、建設業界のDXを包括的に推進していく同グループの姿勢や、中長期的なプラットフォームとしての可能性にご評価をいただいたことが、導入の大きな後押しとなりました。

■ 導入事例インタビュー（note）

新地建設工業様のPROCOLLA導入に至る背景や、今後の展望についての詳細なインタビュー記事を公開しております。ぜひご覧ください。

▼現場監督を「書類」から解放し、「現場」へ。新地建設工業がPROCOLLAで目指す、管理のDXと次世代の建設現場

<https://note.com/arent3d/n/n9c60df329a00>

■ PROCOLLAについて

大林組とArentが共同開発した、建設現場のためのAIクラウド工程管理ツールです。Excelのような自由な操作性と、クラウドによるリアルタイムな情報共有・データ一元化を両立。「現場の作法を変えない」ことを設計思想とし、導入直後から誰でも使いこなせる高いユーザビリティを実現しています。

- 製品サイト：<https://procolla.com>

- お問い合わせ：<https://procolla.com/contact>
- デモ予約：<https://x.gd/5jg6W>

■ 株式会社Arentについて

「暗黙知を民主化する」をミッションに、建設業界のDXを推進する企業です。クライアント企業と共に課題解決に取り組む「DX事業」と、自社SaaSを展開する「プロダクト事業」の二軸で事業を展開しています。BIMを直感的に扱えるRevit向けプラグイン「LightningBIM」シリーズの提供や、M&Aを通じたグループ拡大により、建設業界の構造的課題をテクノロジーで解決しています。

【会社概要】

- **会社名**：株式会社Arent
- **所在地**：東京都港区浜松町2-7-19 KDX浜松町ビル3階
- **代表者**：代表取締役社長 鴨林 広軌
- **設立**：2012年7月2日
- **資本金**：12億8,653万6,388円
- **事業内容**：建設・プラント業界向けDX支援、システム開発・販売
- **Webサイト**：<https://arent.co.jp/>

<本件に関するお問合せ>

info@arent3d.com

以上